

がややうすらぎ、往昔の信仰より発生した行事はしだいに消失し、あるいはその内容が大きく変化したといえよう。本町内で行われてきたおもな信仰行事について、古老の話をもとに列記するところのようである。



図3-187 薬師堂(上小口)

またこの薬師堂には、銅造千体地藏尊(県指定文化財)、や聖徳太子像(県指定文化財)、聖観音座像、釋迦如来立像(いずれも町指定文化財)など多くの貴重な文化財が保存されている。

第二節 民間信仰

概況

多くの人が農耕を生業として生活をいとなんできた本町においては、昔から農業にかんする信仰が、かなり多く行われてきた。

すなわち各部落に、あるいは個人の家に祀られるそれぞれの祭神を中心に、農作物の豊穰、家運の隆盛を祈り、あわせて祖先への崇敬の心を表わした。

しかし今日では社会生活の変革により人々の考え方が移行し、信仰心

表3-159 民間信仰の種類

屋敷神信仰	御嶽信仰	庚申信仰
稲荷信仰	観音信仰	地藏信仰
弘法信仰	山ノ神信仰・田ノ神信仰	金比羅信仰
秋葉信仰	津島信仰	その他(水神様自然物)信仰

これらの信仰はほとんどが「講」を中心に行われてきたのであるが、大戦の勃発とともに一時大部分が消滅した。しかし終戦後多くの講が復活するとともに、一般の人々の間には神仏に対する信仰の念が増え、祭事もしだいに多くなってきた。

また民間信仰と深いつながりをもつ石仏は、町内にかなり多く造立されているが、その年代は一定でなく、多くは江戸時代の中頃から明治時代の中頃(一、七〇〇〜一、九〇〇)であり、地藏・観音・釈迦・弘法大師などが多く信仰の高かったことを示している。

伊勢詣り 伊勢詣りは、昔の人々にとつては大きな夢であり、今日のようにだれでも簡単にできなかつた。このため、近所同志で講組をつくり代参が行われた。

代参者は、参詣を終え村へ帰ると講組の人を集めて土産話をきかせ、お札をわたたといわれている。こうした講組は町内では昭和一〇年ごろまではあつたが、今日では個人による参拝が容易にできるようになり、いづれも廃止されてしまった。

第 2 節 民間信仰

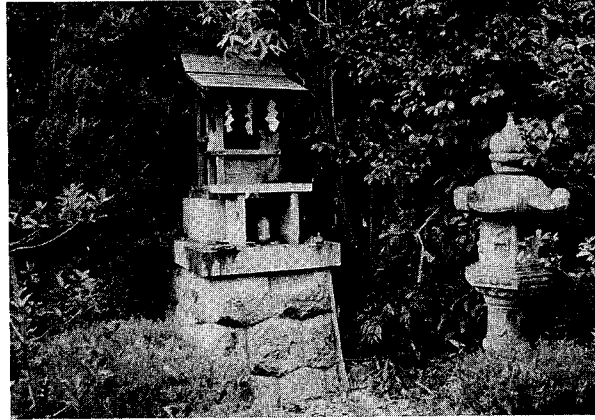


図 3 - 188 屋敷神様(二ツ屋水野宅)

稲荷信仰

昔から農耕の神として信仰されていたが、今日では商売の神としても広く信仰され、豊川稲荷、おちよぼ稲荷(岐阜県)へ参詣する人が最近目立って増加している。

二ツ屋地内にある稲荷様は、「おちよぼ稲荷ふる里の宮」として、昭和三九年九月多くの信者によって祀られたもので、その由来についてつぎのように伝えられている。

※おちよぼ稲荷ふる里の宮、由来

往古、二ツ屋の地内に老狐の「おちよぼ様」が住んでいた。この老狐は奇異なことをし里人をかなりこまらせていたので、里人の願いをうけ六部(諸国行脚の僧侶)が老狐に因果をふくめ、延享八年(一七五一)正月、西濃の地へ連れて行かれた。すなわちこの地が今日参詣者が多い、岐阜県須脇の「お千代保稲荷」が鎮座されている地ということである。二ツ屋開村三五〇年にあたる昭和三九年九月、「須脇のお千代保様のお告げ」をうけ旧塚にふる里の碑をたて、以来境内の設備も進み同時に参詣者も増加し、その靈徳の崇高に折伏し、併せて御神格がますます高まるよう、部落の人々はもとより近郷の信者は日夜お祈りをしている。

弘法信仰

町内ではかなり広く行われていて、弘法大師をまつる家もある。大師の命日にあたる三月二一日には供養を行う。また講組で弘法様をまつり供養するところもあり、参詣者には餅や菓子をだし接待をす

る風習があり、一般のあいだでは、「弘法様が祀つてある家を八八軒お参りすると願いがかなう」といって昔は大人も子どもも大きな袋をもって、一日中弘法様の祀つてある家を回つたが、今日ではこの様子はあまり見受けられない。一方、最近三河の弘法様へ月詣りをする人が多くなつてゐる。また「八八カ所詣り」といって、四国の弘法ゆかりの地へ巡拝に行く人も多い。

秋葉信仰

防火の神として昔から信仰されている。昔ほどの部落でも

講組があり、遠洲(静岡)の秋葉三尺坊へ代参詣りが行われていたが、今日ではあまり行われていない。

代参詣りをした人が、受けてきたお札を各家に配り、「ぐんど」、あるいは「煙突」に貼つて除火を祈願したものである。

また大字豊田字奈良子に鎮座されている「秋葉様」は、大口村誌によると、天保八年(一八三七)に杜本家の先祖でこの地の土豪であつた杜本伴左工門という人が、他郷よりこの地に安置したとあり、今日でも火除けを祈る参拝者が非常に多い。昔は旧正月二八日の縁日には近郷からの参拝者もあり、境内は立錘の余地がないほどの大賑いで多くの露天商人も、店をならべた。

秋葉様へ参拝する人は、各家の「ぐんど」の灰を持参する風習が伝わっている。



図3-189 秋葉三尺坊(豊田字奈良子地内)



図3-190 御嶽大権現(上小口薬師堂境内)

一方町内の部落で、秋葉三尺坊の分神を御輿に収めて巡回し、寺院などへ部落の人が多数集まり参拝するところもあるが、これはすべて講組によって行われている。

御嶽信仰

町内には、覚明靈神を祭神として祀る御嶽社があり、かなり古くから多くの信者がある。なかには修験者

(先達)を中心に講組をつくり、何日もかけて木曾御嶽へ登山参詣に行く人も多くある。御嶽登山道は、天明六年(一七八六)春日井市牛山出生の人「覚明行者」によって開かれたと、伝えられて

いる。

**山ノ神信仰
田ノ神信仰**

山ノ神は、町内では農業の神として崇敬され、往古は二月・一月に山ノ神の日として遊び日であったが、今日ではまったく行

われていない。また「山ノ神」と刻んだ石碑が昔は田のあぜ道、塚の上、辻などに多く祀られていたが、耕地整理などで、ほとんどが氏神様の境内に合祀されている。

また「田ノ神」信仰の行事として、苗代に粃をまいた後、田の神のお札を木の枝につけ、苗代の水口に立て稲



図3-191 山ノ神(二ツ屋神明社境内)

苗の成育が順調であるように祈った。今日ではほとんどみかけないが、神社のお札をうけ、水口に祀る農家がまだ一、二ある。

なお山ノ神は、春期には村里へ下って田ノ神となり、秋の収穫が終了すると、また山へ帰って山ノ神になると伝えられ、秋の祭りは農家で「田ノ神」として参り、冬二月は「山ノ神」として木に関係の仕事に従事する人々が、「ボタモチ」、「赤飯」などを供えお参りする風習があったが、今日ではいずれも少なくなった。

天王信仰

津島社を中心とするこの信仰は、今日でも農耕・防疫の神として多くの部落で崇敬されている。

夏にはいると、夏越しのお祓いをおこなう各所で、天王祭りが行われる。この時多くの部落では氏神様の境内に、茅の葉で大きな輪をつくり「輪くぐり」を行う。参拝の折、人型の紙片に「家内安全」、「郷内安穩」などとしるし奉納するところが多くあり、夜は子供が部落内の辻で「提灯」をともし、キユウリの酢もみをお供えし、お祭りをするところもあった。

地藏信仰

講組あるいは同行衆（信仰する人の集まり）によって路傍（辻）に、

地藏尊が江戸時代後半に多く建立され、それぞれ建立にまつわる伝説もある。

石仏は、元來地藏尊が子供の「安産無病長生」



図3-192 地藏さま(長松寺境内)

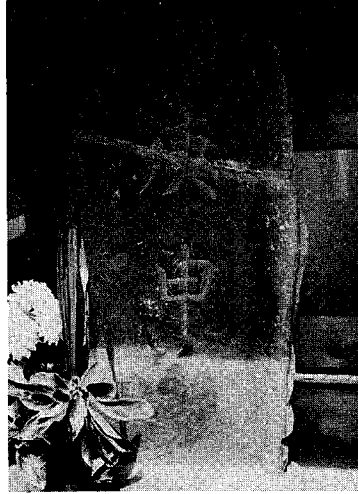


図3-193 庚申さま(下小口白山神社境内)

れるようになったといわれる。

屋敷神信仰

屋敷の一角(屋敷の戌亥(北西))に祀られている神様を屋敷神とよび、山の神・稲荷・御嶽・観音・弘法など祭神はまちまちである。

屋敷神ほどの家も祀っている訳でなく、祀られた年代、由来などはつきりしたものは少ない。したがって祭日や、祭事も一定していないが、春・秋(二月・一〇月ごろ)各一回は行われているが多い。

観音信仰

この信仰の範囲はかなり広く、江戸時代の中頃から大いに普及したといわれ、町内においても部落内に小さな堂をたてお祀りした。また、各所に石仏が多く見受けられ、信仰のあついたことを物語っている。

なかでも往昔、旅人の旅路の安全と村中の無事を祈り路辺に建てられた多くの石仏には、道標をかねたものがあつ

を守護されるとして、童形のもものが多く延命子安地藏菩薩として崇め、今日お詣りする人も多い。

庚申信仰

講組によつて庚申の信仰行事が、昔のまま受けつがれている町内が中小口部落にある。

庚申の日の禁忌行事を主体とした信仰で、庚申様は、青面金剛童子である。江戸時代に建立された庚申供養塔が村中の辻に見受けられる。

また庚申様は、農作物の豊穰を祈る神としてもいつしか信仰さ

め、講組の各家で念仏(般若心経、正信偈、観音経など)を年長者の音頭で、唱えてまわっているが、今日では話し合いや会食の場となつているところも多い。
つぎに伝承による自然物への信仰も昔は町内に、数多くあつた



図3-194 西国三十三観音巡りの記念碑(替地地内)

たが、いまでは土地改良、道路拡張、などによりその建立場所も移り、ただ石仏にその名残りが感じられるだけとなった。
一方、同行者によつて、西国三十三観音めぐりがあるいは、〴〵百観音めぐり(西国・秩父・坂東地区をあわせたもの)が現在でも行われ、信仰の深さを表わしている。

その他信仰

金比羅信仰、伊勢詣りなど、いずれの部落にもあり、伊勢神宮や四国の金比羅様へ参ることは、昔は個人ではなかなか困難であり、部落などで講をつくり代参が行われたようであるが、これも昭和一六、七年ごろにはほとんどなくなつた。また部落で念仏講報恩講(真宗)が今日でも行われている。

この講組は年三、四回ぐらいい日取りをき

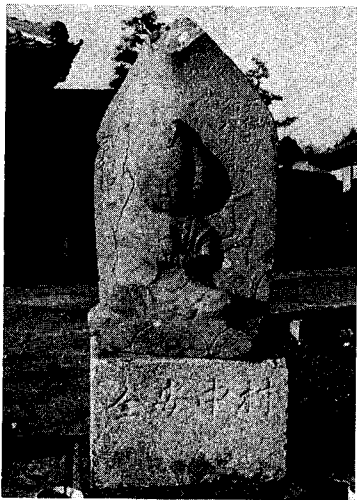


図3-195 馬頭観音(伝右地内)

といわれるが、現在ではほとんど消滅している。その例をあげると、

中小口神社境内の山柿(町指定文化財)

神社境内に繁茂する山柿の大樹はかなりの老木であり、部落から神木として崇められている。古老の話に、この山柿は昔から「子授けの神」として崇敬されていた。子供に恵まれない多くの人が、人目をさげこの山柿にそつと願いをかけ、「^{まき}誕^まび」をまつたことであろう。科学が急速に進歩する今日に——と一笑される人が多いが、素朴な農村の人の自然物に対する信仰の美しさが感じられる。

水神信仰

現在では水神信仰はほとんど消滅している

が、昔から灌漑用水を支配する神として、

多くの人が信仰していた。町内を貫流する五条川のほと

りには、一、二、三か所水神様が祀られている。



図3-196 水神(大屋敷地内五条川堤)

第四編
生活と文化

